

2021（令和3）年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）B 日程 入学試験問題
「小論文」
（60分）

注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。

【問題】 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。（配点 100 点）

新型コロナウイルスの蔓延で、外出自粛や三密回避が求められていた頃、休業要請に応じないパチンコ屋には客が詰めかけていた。利用者にインタビューをすると、「コロナはそんなに怖くない」「かかったら、かかったで仕方がない」という答えが返ってきたそう。これに対して、「こんな時にパチンコをやりに行くなど理解できない」「自分が感染するだけならともかく、他の人に感染させたり、医療崩壊につながる行為であることを理解していないのか」といった批判があった。

あの時、パチンコ屋で遊んでいた人は、他の人よりコロナに対する「恐怖心が弱い人」が多かったのだろう。感染を生じやすいことを理由に居酒屋の営業自粛や営業時間が短縮されていたのに、家に多人数で集まって飲み会をやって集団感染を引き起こしてしまった人、テレワークが可能なのに「これぐらいのことで休むとは何事だ」といって、部下に出勤を強要した上司、これらの人も「恐怖心が弱い人」ということになる。コロナ対策の面からいうと、このような「恐怖心の弱い人」の存在は、とても問題があるように思われる。

しかし、一律に問題があるとはばかりいいきれののだろうか。急激な環境変動で、ある集団に存亡の危機が迫っている事態を想定してみよう。集団の構成員が「恐怖心の強い人」だけだったら、思い切った対策をとることができず、座して死を待つことになってしまうかも知れない。「恐怖心の弱い人」なら、乾坤一擲、一か八かの蛮勇で、自分を救い、その集団が生き残る道を切り開ける可能性もある。もちろん、その蛮勇で、最初に死んでしまうリスクは高いだろう。そうすると、「恐怖心の弱い人」だけの集団も困ったものだ。粘り強く耐えれば、なんとか生き残れたものを、早々に死に絶えてしまう可能性があるからだ。

こう考えていくと、集団の中に「恐怖心の弱い人」と「恐怖心の強い人」が適当に入り交じっているのがいいということになる。これは遺伝的多様性ということに通じるように思われる。遺伝的多様性は、種の生存と密接に関係する。多様性が高いことは、環境が変化した場合に適応して生存するための遺伝子を、誰かが持っている確率が高いことを意味するからだ。

新型コロナ騒動では、「恐怖心の弱い人」の問題が目についた。しかし、同じ状況下で、「恐怖心が強い人」も別の問題を引き起こしていたことも考えられる。反対に、「恐怖心の弱い人」が社会に貢献していたということもありうる。

設問 新型コロナ騒動において「恐怖心の強い人」が引き起こした（引き起こす可能性があった）問題と、「恐怖心が弱い人」が社会にした（できる可能性のあった）貢献について具体例を挙げつつ、集団の中に「恐怖心の弱い人」と「恐怖心の強い人」が適当に入り交じっていることのメリットについて論じなさい。